平成 26 年度　首里城跡発掘調査（継世門（けいせいもん）北地区）現地説明会資料

平成27年1月18日（日）
沖縄県立埋蔵文化財センター

１．はじめに

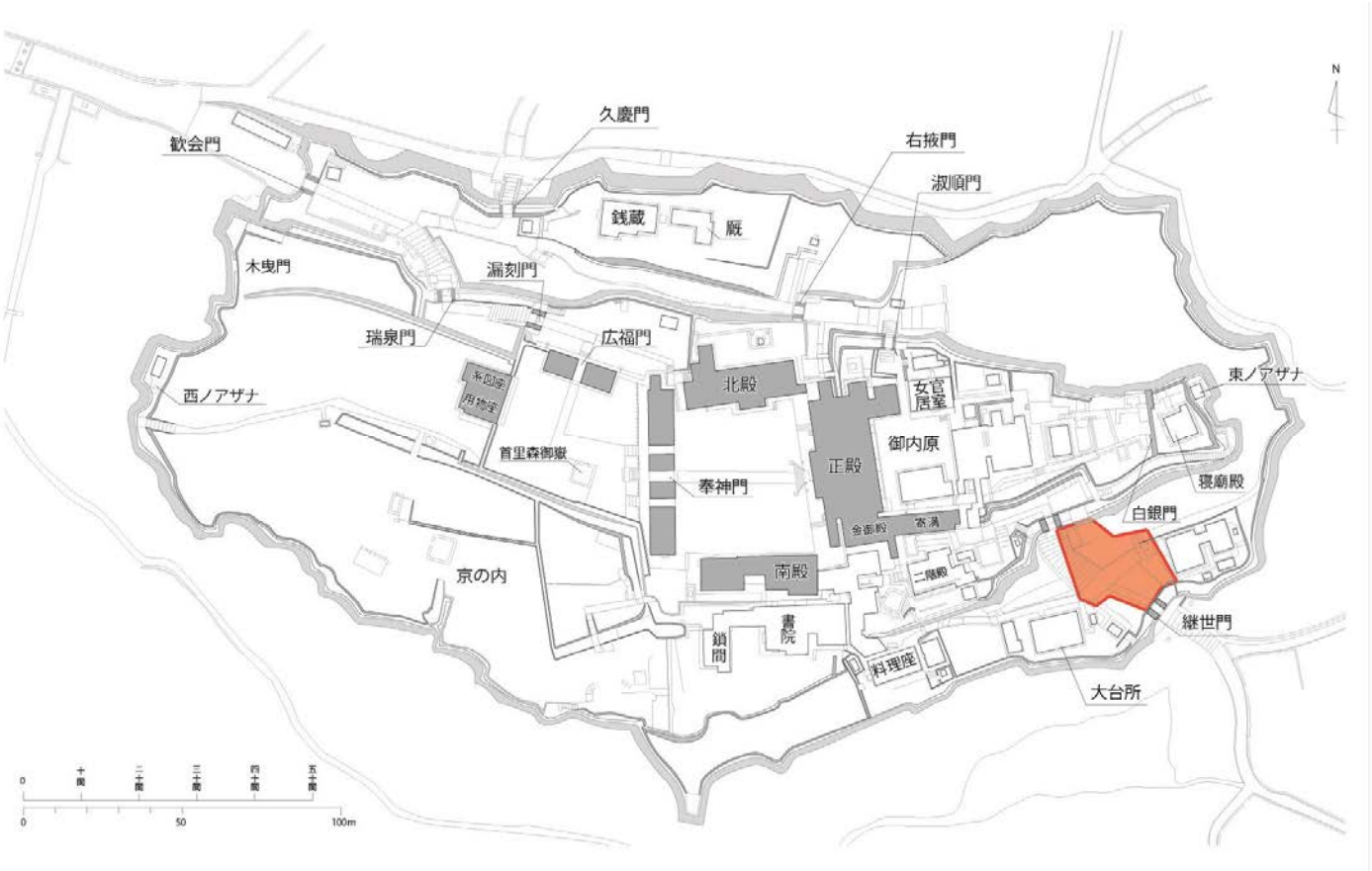
沖縄県立埋蔵文化財センターでは、内閣府　沖縄総合事務局　国営沖縄記念公園事務所の委託を受けて、首里城跡の発掘調査を継続的に実施しています。今年度は美福門と継世門を結ぶ通路などがあった「継世門北地区」での調査を進めており、この成果は首里城公園の整備を進めるうえでの基礎資料となります。

２．調査の概要

・遺　跡　名：首里城跡
・所　在　地：那覇市首里当蔵町3丁目 1 番地
・調査目的：国営沖縄記念公園（首里城地区）の整備に伴う遺構確認調査
・調査面積：約 700 ㎡
・調査期間：平成 26 年7月～平成 27 年2月

３．首里城跡とは

首里城は、那覇市の東方、標高 100m前後の琉球石灰岩丘陵上に所在する県内最大規模のグスクで、かつての琉球王国の王城です。正確な築城年代は不明ですが、これまでの調査成果から 14 世紀代には瓦葺建物の存在が想定されており、15 世紀後半～16 世紀に外郭の拡張などが進み、現在の形に近づいていったと推定されています。沖縄戦で建物や石垣が破壊され、戦後は跡地に大学が建設されていましたが、沖縄県の日本復帰と同時に国の史跡に指定された後は発掘調査と整備が着実に進められ、往時の威容を取り戻しつつあります。

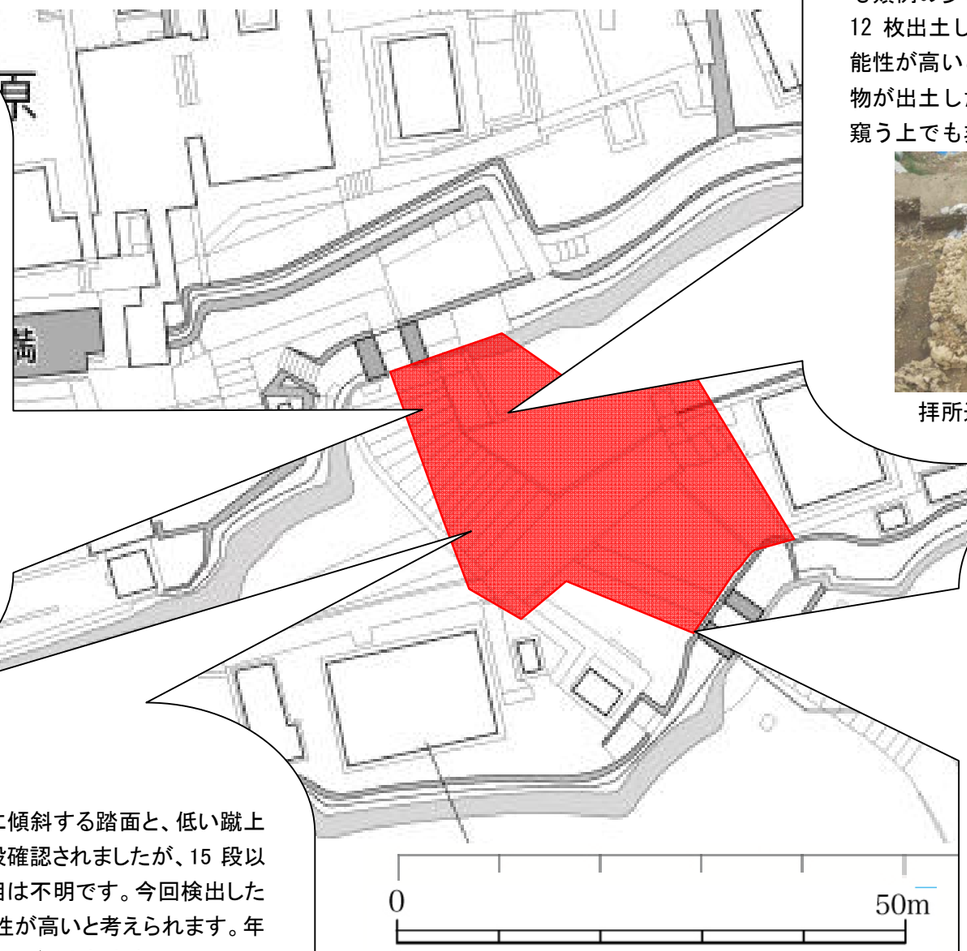


第１図　首里城跡発掘調査　平成 26 年度調査区（継世門北地区）

４．調査の成果（中間報告）

本年度は、「継世門北地区」における遺構確認を目的とした発掘調査を実施しました。これらの成果は今後詳細な資料整理作業によりまとめられますが、ここでは中間報告として、現時点で判明している成果を代表的な遺構ごとに報告します。

第２図
継世門北地区拡大図



土留め石積み

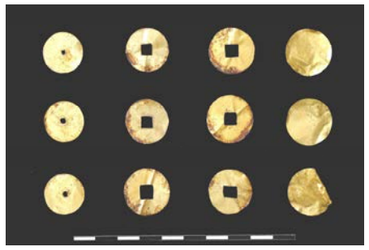
美福門城壁及び磴道（とうどう）の下層から検出された遺構で、粗く加工された大型の石材を用いています。調査区一帯が北から南へ傾斜する場所にあるため、この石積みは美福門城壁を構築する前の基礎工事で積み上げられたものと考えられます。年代は出土遺物から 15 世紀前半～中葉に位置づけられます。

土留め石積み検出状況（西から）

拝所遺構

直径３～４ｍ、高さ約２ｍの巨岩を石積みで囲んだ遺構で、城内十嶽のひとつ「赤田御門の御嶽」と考えられます。この巨岩上面にある２ヶ所のくぼみから、県内でも類例の少ない金製の厭勝銭（えんしょうせん）が人為的に埋められた状態で合計 12 枚出土しました。巨岩は御嶽の「イビ（神が降臨する際の標識）」に相当する可能性が高いことから、今回の発見は首里城内にある御嶽の「イビ」から呪術的な遺物が出土した初めての事例であり、琉球王国時代の首里城内における祭祀の様相を窺う上でも非常に重要な資料といえます。

拝所遺構検出状況（北から）



巨岩上面出土の金製厭勝銭

ピット群

今年度調査区の南側は、かつて継世門に続く平場や通路などがあったとされる場所です。しかし発掘調査の結果、戦後の大学建設に伴う工事で地山まで削平されており、一部にはコンクリート建物の基礎も残っていました。一帯の地山面を精査すると、グスク時代と考えられるピットが約 30 基検出されました。中には柱を建てたような跡がみられるものも複数確認されていることから、この場所が首里城として整備される以前に、何らかの建物があったと想定されます。

ピット群検出状況（南から）

美福門前の磴道（とうどう）（階段）

美福門から南に延びるスロープ状の石階段で、幅が広く緩やかに傾斜する踏面と、低い蹴上げという独特の形態を持っています。美福門の基壇から数えて 14 段確認されましたが、15 段以降は戦後の造成により破壊されているため、残念ながら全体の様相は不明です。今回検出したのは磴道の東側部分で、西側部分は道路の下に埋まっている可能性が高いと考えられます。年代は隣接する石積み直下の出土遺物から、15 世紀前半～中葉に位置づけられます。

美福門前磴道検出状況（南西から）

５．まとめ

以上、平成 26 年度首里城跡発掘調査の中間報告を行いました。今回の調査では、美福門から南へ延びる磴道や、基礎工事の際に構築した土留め石積み、城内十嶽の一つ「赤田御門の御嶽」とみられる拝所遺構など様々な成果が得られました。これらの遺構はほとんどが 15 世紀～16 世紀に位置づけられるもので、不明な点が多い近世以前の首里城の姿に迫ることのできる貴重な資料といえます。調査区の南側は、戦後の工事で大きく破壊されていましたが、首里城以前とみられるピット群が検出されており、土地利用の変遷を知る上でも興味深い発見がありました。

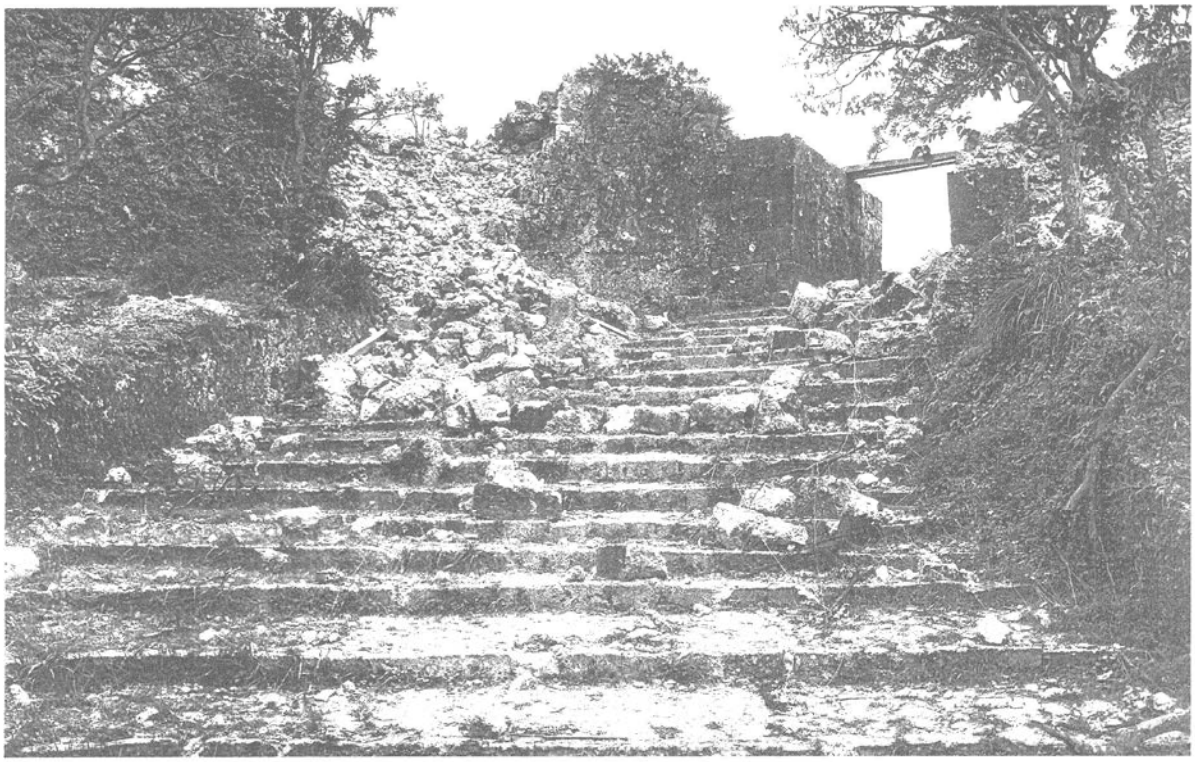
遺物は中国・タイ・日本・琉球産の陶磁器類をはじめ、金属製品・ガラス製品・骨製品・自然遺物などが大量に出土しました。特筆されるものとしては、拝所遺構の「イビ」から出土した金製厭勝銭が挙げられます。

これらの成果については、今後、分類・集計・図化・写真撮影などの整理作業のほか、保存処理や自然科学分析などを行い、調査報告書としてまとめられることになります。

・参考資料

首里城跡（継世門北地区及び周辺）関連年表

西 暦	元 号	事 項
1392年	察度43年	数丈の高楼を建造して遊観に備える（首里城創建か）
1422～39年	尚巴志王代	美福門創建と伝わる
1546年	尚清20年	継世門及び門両側の城壁が創建される
1732年	尚敬20年	美福門前の磴道階下東側に佐敷御殿が創建される
1846年	尚育12年	異国人対策のため歓会門・久慶門・継世門に二重扉を設置する
1851年	尚泰4年	異国人対策のため歓会門・久慶門・継世門等に三重扉を、淑順門・美福門等に二重扉を設置し、城壁に灰粉を塗って修復する
1879年	尚泰32/明治12年	琉球処分　首里城が明け渡され熊本鎮台沖縄分遣隊の駐屯地となる
1908年	明治41年	城内に首里区立女子工芸学校が移転後、管理上の都合により美福門が閉じられる
1909年	明治42年	首里城跡が陸軍省から首里区に払い下げられる
1932～33年	昭和7～8年	管理のため閉じられた美福門が再び開けられる
1944年	昭和19年	首里城跡の地下に第32軍司令部壕が構築される
1945年	昭和20年	沖縄戦により城内の建物・石垣などが破壊される
1950年	昭和25年	首里城跡地に琉球大学が開学する
1955年	昭和30年	首里城跡が琉球政府の史跡に指定される
1964～65年	昭和39～40年	一帯に農学ビルが建設される
1972年	昭和47年	沖縄県の日本復帰　首里城跡が国の史跡に指定される
		首里城城郭等の復元整備及び遺構調査が沖縄県教育庁文化課により開始される　※2001（平成13）年度に終了
1977年	昭和52年	琉球大学が西原町へ移転を開始する　※1984（昭和59）年に完了
1986年	昭和61年	首里城跡地約4haを「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備することが閣議決定される
1987年	昭和62年	国営沖縄記念公園（首里城地区）整備に伴う発掘調査が沖縄県教育庁文化課により開始される　※現在も継続中
1992年	平成4年	首里城公園が開園する（約1.7ha供用開始）
2000年	平成12年	「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一資産として世界文化遺産に登録される



沖縄戦で崩れた美福門の城壁と磴道（1945 年 6 月 18 日撮影）

※大田昌秀監修 1990『写真集　沖縄戦』那覇出版社より